

「ヘルパーさんが無資格者やボランティアになるのは困る。こんな不安が介護保険サービスの利用者に広がっています。4月から始まる介護保険の改悪。利用者の声を行政に届けて改悪をくじとめ、制度の改善をはかる運動も進んでいます。」（海老名市信）

ドに横たわっています。
「ヘルパーさんが無資格者やボランティアにならざるを得ないことがあります。ヘルパーは家事援助を通して、利用者の残存能力を維持したり、健康状態を把握し医療につなげたりする役割があるといいます。」

北村さんを担当するケアマネジャーの岡部順子さんは、今回の改悪を

「ヘルパーの専門性を否定するもの」と批判します。ヘルパーは家事援助を通して、利用者の残存能力を維持したり、健康状態を把握し医療につなげたりする役割があるといいます。

北村さんは「減らされ年金から高い保険料を払っているのに、介護保険を利用できないなん

て、おかしい」。昨年成立した医療介護事業所は調査などをします。

北村さんの住む田野市

（いずれも本部は立川市）が、昨秋2カ月かけて利用者93人、要支援者83人から聞きとり調査を

して、このほど結果を発表しました。

訪問介護や通所介護が無資格者やボランティアもできることについて、「不安・心配」と答えた

要支援者は80、5歳以上

の高齢者で、そのうち75%が

利用者「不安」85%

介護保険改悪の一つが
「要支援1・2」のサービスのうち訪問介護と通所介護を保険から外すことです。要支援者は約170万人。そのサービスのうち訪問介護と通所介護は最も利用者が多い。

外されたサービスは市町

村が新たに実施する総合

事業に移されます。無資

格者やボランティアでも

サービスの提供ができます。

東京で民医連

聞きとり調査

東京で民医連